

平成18年度 市民と語る会 会議録

日 時	平成18年10月21日(土) 午後2時~4時
会 場	西信達小学校
参加者	10名
審議会委員	6名
事務局	16名

開会の挨拶

平成16年度審議会答申の報告

平成18年教育問題審議会の諮問について

生じた差別事象について

ビデオ観賞(小規模校と大規模校の運動会の様子)

意見交換

会長 みなさんごろうさまです。よろしくお願ひします。泉南市での今後の学校教育をどのようにいいものにしていくのかということで平成16年度からの審議会で一定の結論が出ました。説明のとおりです。ただし、学校規模の適正化につきましては一定の方向、方策はしめされたわけですが、具体的な線引きまでは議論がにつきましませんでした。この学校とこの学校で調整しようというところまでで平成16年度の審議会が終了したわけですが、その他のところは答申として、まとまったわけですが、学校規模適正化の線引きについてはあらたに審議会がひらかれることになりました。その会長をさせていただいています。しきりなおしになったわけですが、今日は私を含め何人かの審議委員に参加してもらっている。7月から議論を開始しているが、審議委員自身も泉南市全体のことかわかっていないので、資料を検討したり、16年度の結論部分や泉南市の現状について学習、吸収する作業にはいっている。審議委員の中に市民委員やPTA役員にもはいてもらっているが、多くの市民の声を吸収するのが、なかなか難しいので、中学校区に出向いていって、話を聞こうというのがこの取り組みです。本日は3箇所めで、今晚で終えることとなります。今後の取り組みを紹介しますと、11月に2日間もうけて、審議委員による現場の学校の様子を拝見しようということで視察をする予定がはいています。そのあと、具体的な議論に入っていこうと思っています。その課程では皆さん方の意見をきかせていただくことも検討していかなければなら

ないと考えている。今日も有意義な場にしていきたいので、参加の方が少ない分、いろんな意見をおもいきりだしていただけたらと思う。前審議会の答申についてわかりにくいところを質問してもらっても、今の審議会への進めた方の質問でも結構です。答えられるところは答えながら、現場のみなさんの声をうけとめて審議の参考にさせていただきたいと思っている。どなたからでも結構ですので、手を上げてお聞かせ下さい。

参加者 樽井校区です。今回の審議会は 3 回続けて傍聴させていただいた。私はこの語る会の情報は市の広報にしかたよりになるものがなかったが、保幼小の保護者の方にも語る会の情報を配布されたかどうかの確認と、校長先生や担任の先生などの責任者の方からこういう場があるので、ぜひ参加してほしいなどのチラシ以外の言葉かけはあったのか。西信校区の人がどのような意見をおもちか聞いたかったが、見渡したところあまりいない、積極的によびかけてあつまってもらえたらと思っている。前回あいびあで行われた語る会では、どんな立場で参加者されたのかわかるようにガムテープでもはって所属をはっきりさせていた。今回はこの会ではそれもないので、アリバイ作りではないでしょうかと思った。校区のいろんな意見を出してほしいという気持ちがないのではないかと。10月14日の信中校区、10月16日の一丘校区の参加者の数を知らせてほしい。一般の保護者の数がわかれば教えてほしい

会長 ありがとうございます。事務局の方でお願いします。

指導部長 今日のご参加ありがとうございます。建設的なご意見をいただきました。参加者をうながすための方法はいろいろあるが、広報のほか、幼稚園、保育所、小学校の保護者の全保護者には、ちらしをまいております。ちらしの中身はあとでお渡しします。表と裏になっています。表は何のためにするかを書いてあり、裏は学校規模の適正化について書いてある。前回の審議会の紹介をしています。ただ、ちらしを配るときに、園長先生や先生方によびかけは正直しておりません。今回の語る会ではなく、前回の審議会も語る会をしました。どういった方が参加するのかということで、名札をつけた。市民とか、保護者とかがわかるようにした。お互いがわかるような雰囲気もした。今回、そういった事が無いということで残念だということだと思います。しいていえば、前は 3 分野において諮問させていただいたので、就学前の立場からとか、学校の立場からとか、市民の立場ということもしりたかったのでそういうふうにした。今回は学校の学ぶ喜びを・・・を議論するときに学校規模の適正化について議論となった。一定の一分野ということもあったので、前回のよ様な準備をしていない、という説得力のない話ですが、そういうことです。参加者の件ですが、14日は審議委員を除くと信達中学校は参加者は20名、一丘は15名です。

会長 今日、3回めで、たくさんの方が参加してほしいと思うがなかなか難しい。土曜日の夜がいいと思ってやると、土日の休みで親子がゆっくりするときとおこられて、

2 回目は平日の夜でしんどいのにとしかられて、今日は土曜日の昼ですが、全体でうまくいくという日はなかなか難しくて???次に意見を求めるときには出るかでないかではなく、工夫をする必要があると感じている。選挙ではないですが、無関心もひとつの反応ですから、選挙にいかないというのも、ひとつの反応ですから、校区にたいしても来ないというのはそれもひとつの反応です。しかし関心はあるがいけない人の意見をとりあげる工夫は必要なのではないかと思う。

審議委員 学校でそういった呼びかけをしているかという質問ですが、鳴滝第 2 小学校では、教育問題審議会の中で差別事象がおこったということで、PTA の学習会をもちまして、学校規模適正化に伴う審議会が今ひらかれていることを説明しました。ちらしも配らしていただきました。学校でも独自で作りまして、市の裏面とセットで呼びかけをしていただいた。授業参観でも呼びかけをさせていただいた。今日の夜は呼びかけをさせていただいているので、きていただけると思う。

参加者 泉中校区の最後まで語る会にいきたい。教職員という立場と、小学校と、保育所の親という思いもある。砂川小学校ではチラシだけをもらった。差別事象についても温度差がある。みなさん、教職員も理解しているかどうかといったように、そこを丁寧にしてほしい。審議委員が PTA 代表ででているなら、PTA の会で議論する場でもしてほしい、ただビラ 1 枚ではなかなか伝わってこない。私は鳴滝幼稚園に勤めていて、このときつらい思いをした保護者の声を聞いていて、つらい思いをしてきたことを知っているの、おかしいと思ってきた。校区が山手と海手では温度差がある。前回の語る会では、意見を書く欄があった。私たちは仕事柄しゃべることもできるが、保護者はあんな中では意見がいえませんといていた。そういう意見をどうひらっていくのか。要望や意見がなかなか言えないということもあるので、前回は意見を書く欄があった、今回はまったくないので、家にかえってから、これ言うの忘れたとか、聞きたいとかがあって毎回、参加者しているが、今回感想をとっていない理由や考えがあったのかどうか。

会長 最初の方から何のために語る会をするのかということと重なってきている。審議委員の中には、各団体の代表は入っているが、現場の声を大切にしたいという原則なので、密室の審議会ではなく、現場に出ようということ語る会や学校訪問がある。でも実際やってみると、案内がぶっきらぼうだとか、マイクではいいにくいとか、でにくいとかがあるということです。もうすこしいいものにしていこうという提案だと思います。パブリックコメント、国の審議会でも自宅のパソコンから送るのが当たり前になっている時代ですがから、再度求めるときには一工夫、ふた工夫、審議会でも丁寧に議論していこうと持ってかえりたいと思います。現場の学校の先生にきちっと状況を伝えてください。保護者が内容を聞くというのは学校の先生しかなく、現場の先生が教育行政や審議会の窓口なので、徹底して下さいという意見が前回もありました。こういった情報が現場に徹底する工夫が必要。徹底している学

校もあると思いますが、その点につきましてもお願いしたい。

参加者 私も 3 回、参加させていただいた。今回は自分の住んでいる校区ということで、私のこどもはもう中学校を卒業した。西信達校区の保護者の方がどんな意見をもっているのか知りたいと思って参加した。審議会にお聞きしたいこともあるが、保護者の方がどんな思いをもっておられるかをききたい。自分はここに住んでいるが仕事をしているので、地域の方とのつながりをつくってこれなかった。そんな中で地域の方がどのような思いをもって子どもを育ててきているのかを聞きたいと思って参加しました。先ほどの教育委員会の説明の中で耐震検査で西信達小学校・中学校では、課題があると聞いた。子どもの参観にいても子どもが大事にされている環境でないと感じた。それを補うために PTA がペンキを塗ったり、清掃をしたり、工夫もした。耐震の結果から小中一貫校ということも聞いたが、建物の不備を解消するために一貫校というふうに聞こえる。小学校は 2 クラスでも良いかと思いますが、中学校は学年 2 クラスで人数が少ない。少ないために、先生の数が少なかったり、クラブの数が少なかったりする。一貫校にすることによって、改善できる見通しがあつての改善できるということなのか。ほかの校区は、適正規模という考えがあるのに、西信校区だけは、人数はそのまま改善することができるのか、前回の審議会の中とか教育委員会でお考えがあればお聞きしたい。

指導部長 ご質問の趣旨は西信は 1 中学校 1 小学校です。人数的には中学校になっても変わらないという現状がある。小規模校のよさもありますが、デメリットもあるということでお話を伺いました。答申では、事務局で報告させていただいたように、将来的には西信達中学校は建物がいたんでいるということで大規模改修が必要ということでもあります。そういった中で小中の一貫教育について議論を進めていけばどうかということです。現況ですが、5 年くらい以上前までは、住宅開発もすすんでいなかったし、古くからの住民の学校という面もあったが、ここ数年急速に住宅開発があり、他市や市内からの住民の移動があるのが事実であり、特に低学年の児童数が増えている。多様な人と出会うということが少しずつ改善されていると思う。小中一貫教育のやり方はいろいろある。3・3・3 という考え方もある。小から中になったときにいろんなカベがあり、生徒指導面のカベとか 9 年間のスパンの中で不登校が増えるということもある。また教科においても社会科などは同じところを重複して勉強するというところもある。そんな面もある。英語教育の早期実施とか、一貫校において考えることができる。一貫校はただ単に人数だけのことではなく、様々な教育に取り組みめるということで、学校に来て楽しい、学ぶ意欲を持てるような教育の中身を考えることができると思う。一貫校の可能性について述べられているが、具体的にいつからということについては、今後とも研究していきたい。

事務局 小中一貫校の具体的な方策はのっていない。何故議論になったのかは、西信小中学校校区は小中連携のモデル的な役割をしてくれている。兼務ということもある。小学

校の高学年から中学校へ、5年間を一人の先生が体育をみているということになっている。段差の解消、小学校から中学校へ移行する中で大きな壁があるということ。をそういうかたちで西信達の校区で取り組みをしていただいで克服にとりくんでいる土壌があるので、それを発展させて行こうということも含め、一貫校の研究をすればということに記載されたと理解している。

会長 この審議会は実際の校区再編の線引きが役割になっている。その背景には今後の学校教育のあり方という考え方があって、そこには子どもの教育を受ける権利の補償ということがあります。校区問題と小中一貫校はそんなかけはなれたものではない。どういう新しい教育の姿があるのかと興味深く思った。例えば校舎が一緒になるのかなど、まだ研究、可能性、そういう視点をもった小中の連携が1小・1中ということですから、このことでもどこかで議論を出していただけたらと思う。西信達中学校区の保護者の方でご意見は

参加者 はじめての参加者です。泉南にきて3年くらいです。上の子どもが小1年生、下は年中になる。議論の参加者は少ないか多いはわからない。今日も私は園長先生が声をかけてくれなかったら来てないと思う。何故ピラを見ても来ないかと言うと、役所は結論が遅いので、決まるときには子どもは大きくなっている。今の3年生と5年生にいじめがあって学校が崩壊している状態として、家を買ったところなのに、何軒か先の人はいもう引っ越すということを考えているみたいです。そのことがあって我が子はどうなるかと思ってしまう、教育に熱心なおかあさんは、西信達中学校に行かせずに私学にいかそうと考えている。熱心組はそうで、おかあさんだけのおかあさんになりきれていない人は、自分らは夜な夜なカラオケに行っ、子どもはほったらかしという状態。2つのグループにわかれる。小中一貫校になっても泉南には賢い子はいない。中途半端なこどもしかいない。結局、そのまま大人になって、エリートの子は外へ出て中途半端な人しか残らない。高給とりは泉南にいない。ひっこしてまずいとも思う。適正化といっても、平成16年度に始まって、決まったときには自分の子どもは5年6年になっている。ちょっと話が進んで形がみえたら、保護者は参加しようという気持ちにもなるが、2年たっても進んでいない、そうなる市民は来ない。関係なくなったら来ないというのが本音かなと思う。幼稚園の子どもを持ったときに引っ越してきて、貝塚市では公立の幼稚園について魅力があった。公立は抽選があったり。泉南は幼稚園はあいている。みんな私立にいかせているから。なんで魅力がない。もっとこういう取り組みをやっているという工夫が必要である。広報にのせているが、誰も広報を見ていない。同じ文章を作るときにも、人目をひく紙面づくりが大事なのではないかを感じる。

会長 いくつかの点について指摘があった。ひとつはこれ、事務局にこたえていただきたい。この議論はいつまでやっているのか。答申をだすことと導入するということは、

お役所仕事でいうと、通学している子どもに、関係のないことになってくるのではないか。導入の見通しについての議論、あとは、校区ではないが、幼稚園を含めたあり方にかかわってくるが、小中の校区を考えているが私学を考えている層と分離しているのではないか。泉南市のまちが取り残されていってしまうのではないか。貝塚の話も交えてお話いただいた。教育内容にもかかわるので、また審議会の進め方について考えていることを教育委員会として答えていただきたい。

指導部長 この審議会は 7 月から始めました。現在こういう状況で進んでいる。今後、校区の線引きをどうするか。いつまでにというのはお答えできないが、いえることはご意見を出されたように、今の子どもたちに反映されなければ意味がない、その通りである早く進めていきたい。泉南市の教育はどうかということですが、教育委員会としましては、各小中幼稚園も含めて一生懸命とりくんでいるというふうに思っている。幼稚園が魅力がないからではないかとの意見でしたが、他市とくらべると幼稚園の数が多し。すべての子どもを受け入れるという体制で臨んでいる。公立と私立は半分くらいの子どもの見ているので、1 園あたりの人数に差があることは事実。公立幼稚園では、マンモス化していない幼稚園での遊びや自然をとおして、幼児教育は十分できていると考えている。しかしそういった保護者のご意見は聞いていかなければならないと思っている。いい取り組みをしながらも理解されていないのも正直いってある。広報の有り方や様々な方法があると思うが、泉南の幼稚園のあり方、さらに工夫していかなければならないと思っている。これは小学校でも中学校でも同じである。泉南市全体の幼稚園や中学校、小学校の様子もご覧さればと思う。

会長 小学校の子どもさんが卒業するまでには、私はもっと早い時期と思っていますが、線がひかれたらあとは導入ということだけで、過渡的な措置は議論になると思いますが、いまやっている審議会の結論は実施するのに、具体化するのにタイムラグすることはないと思う。順調に審議が進めば、それほど遅くならないと思う。これはご意見なのでどちらが間違いとか正しいとかはないが、熱心な保護者は私学の受験を考えている、泉南市に残る子どもは賢い子はいない。まちの教育はしんどい子を抱えていくという、そんなところになるのではないかという心配、と情報だとは思いますが、八尾でも同じことがある。東京の様子を思いうかべた。東京は小学校から中学校に行くのに 4、5 割が私学に行く。お受験、になっている。定員が増えたら 6 割 7 割が私学に行くのではないかということもある。学校自由選択性というのも入っている。選択してたくさん的人数があつまったところに税金がたくさんいくとなったら、入学生 0 の学年がある。卒業式のない学年もあり東京の施策に批判も起きている。大阪は、地元学校で育てていこう、中学校区をもとにしたコミュニティをつくっていこうということですから、学校を核にして、地域の同級生や先輩があつまる。子どもを核にして人が集まる。いろんな人が地域で住みくらしていく隣

人同士というコミュニティをつくっていく施設として考えようというのが、東京に対する大阪の考え方になる。挨拶できる関係づくりがとても大事。コミュニティを誇りに思う。自慢に思う。単に何丁目から何丁目を一緒にするという意味ではなくて、つながりがあるということでコミュニティという言葉をつかっているが、地域のコミュニティー力が引きこもり防止、児童虐待防止の下地になっていくのではないかと思う。もっと公立学校がいい教育をしてくれて、私学よりもいいとしてコミュニティの核として育ててほしいと思っている。前の審議会は本気でそんな学校にして行こうという方向と課題を出している。そのことを本気で考えていくと、いじらんほうがいい。子どもの教育にとってはどうなのかということで、いじりにくいところにも手をつっこみながらコミュニティを作っていこうと決断している。幼稚園がなぜ私学のほうが人気があるのかを研究してもらって、教育実践の研究活動にも力も入れてほしい。他地区の審議会もやっているからいうのではないが、いいものをつくろうという教育委員会はほんまに考えていこうという可能性の街だと思っている。この前の語る会では、校区は大事だけれど地震が起こったらどうするのか、地震で危ないところに子どもを通わさないでほしいとか、率直に引越しして迷われていることはない。と思います。そういうことも参考にしてほしい。

参加者 西信のことしかわからない。幼稚園に送り迎えをする。中学生は外でたばこをすっている。ここの中学校にいくんという。小学校に有志で踊りに来てくれる中学生が髪の毛まっちょっちょ。見た目で見たらあかんけれど、おんなじメンバーでいくのやから、不安。わが子こうなるのか。地域性を考えると、ここの地区に住んでいるからココをみてて不安になる。

参加者 同じように私もひっこしてきた。0歳の子どもからかかわってきている。図書館の活動にかかわってきた。社会教育も含め???かなり教育委員会には辛口の意見になるが、教育委員会が泉南の子どもたちについてどれだけ本気になっているかを感じる。限られたパイをとりあっている。今のままではお金がないから。府教育委員会の地域コーディネーター講座を受け、大事だとは思っている。現状の話、阪南は統廃合のあとどう使うかを話し合って???貝塚も廃園・親が何を考えるかは教育委員会との信頼関係???泉佐野は4つしかない幼稚園だが、市民として行動していることもある。ここの校区に絞ると、そういう子どもをみたら、自分の子どももそうなると思うと、ここがだめなら、外という市民が多い、こうしたらこうしたらといえばバッシングされた。ここの中学校区の中で、おかしいということで、連携をもって親も学校に気持ちを向けてとりくんできた。保護者も閉鎖的、学校も呼びかけても呼びかけても来ないということもある。西信達は二極化している。地域にかかわることが少なくなっている。親教育に力を入れないと、PTAの役割も大事やし、市民の意識も高い。ここに来ていない親にもっと言いたいこともある。教育委員会も活気的なことと思ひ、公募もしたが、トップダウンといえば聞こえは悪

いが、核になるものを教育委員会が持っていないので、危機にきていると思う。胸をはれば納得するものがある。鳴滝第1小学校の是正にどうして西信達小学校がはいるのか???中学校でいじめがある。早く関係ができるとそのままできていて???もっと多くの学校区に船出するのに、小規模の中学校であるはずでない。大規模校の解消と小規模校の解消というなら、高校のあり方もみて舵をきりなおすことも必要で、教育委員会も予算にむけてもものを言っていたきたい。

会長 この点だけというのがありましたら。

参加者 さきほどから、この地域の意見をいただいて反省することもある。この意見を地域としてもりあげたいという思いでいっぱい。10年ほどかかわらせていただいている中で、特異性も感じる。中学校の子どもの姿を見たときに人との関係の弱さを感じる。同じ枠にいれることで人との関係がフォローできるのか。特認にするとか、幼稚園も入れてもらって、そこを踏まえて0歳からみるなどの???校区の保護者が来ていない。今日は西信達中学校の文化祭があった。地域の方や小学生も着ている。ひとつのことでもりあがるということもいっぱいある。中学校区のコミュニティをもっともっと広められたらと思う。中学校のフェスタむけての取り組みをしていきたい。

参加者 フェスタは地域が小さいだけにかかわりが深いのでよさは痛感している。

会長 いろいろご意見ありがとうございます。今の審議会に直接の意見もいただいた。校区問題は線を引く議論をやっているだけではない。その背景には学校教育をどうしていくのかの議論があり、その出口が線引きの問題になっている。泉南の教育行政のあり方についても建設的な意見をいただいた。教育委員会の責任者もきているので、別の機会での議論を深めていただく機会もあると思う。参加した審議委員もそれぞれに受け止めていることもあると思う。これで語る会を終了したい。